

景況調査 山形

第28回「山形県企業景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、県内景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

アンケート対象企業（756社）有効回答数500社（回答率66.1%）すべての質問事項についてDI（Diffusion Index）値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」＝（「良い」と回答した企業の割合）－（「悪い」と回答した企業の割合）

3 調査期間

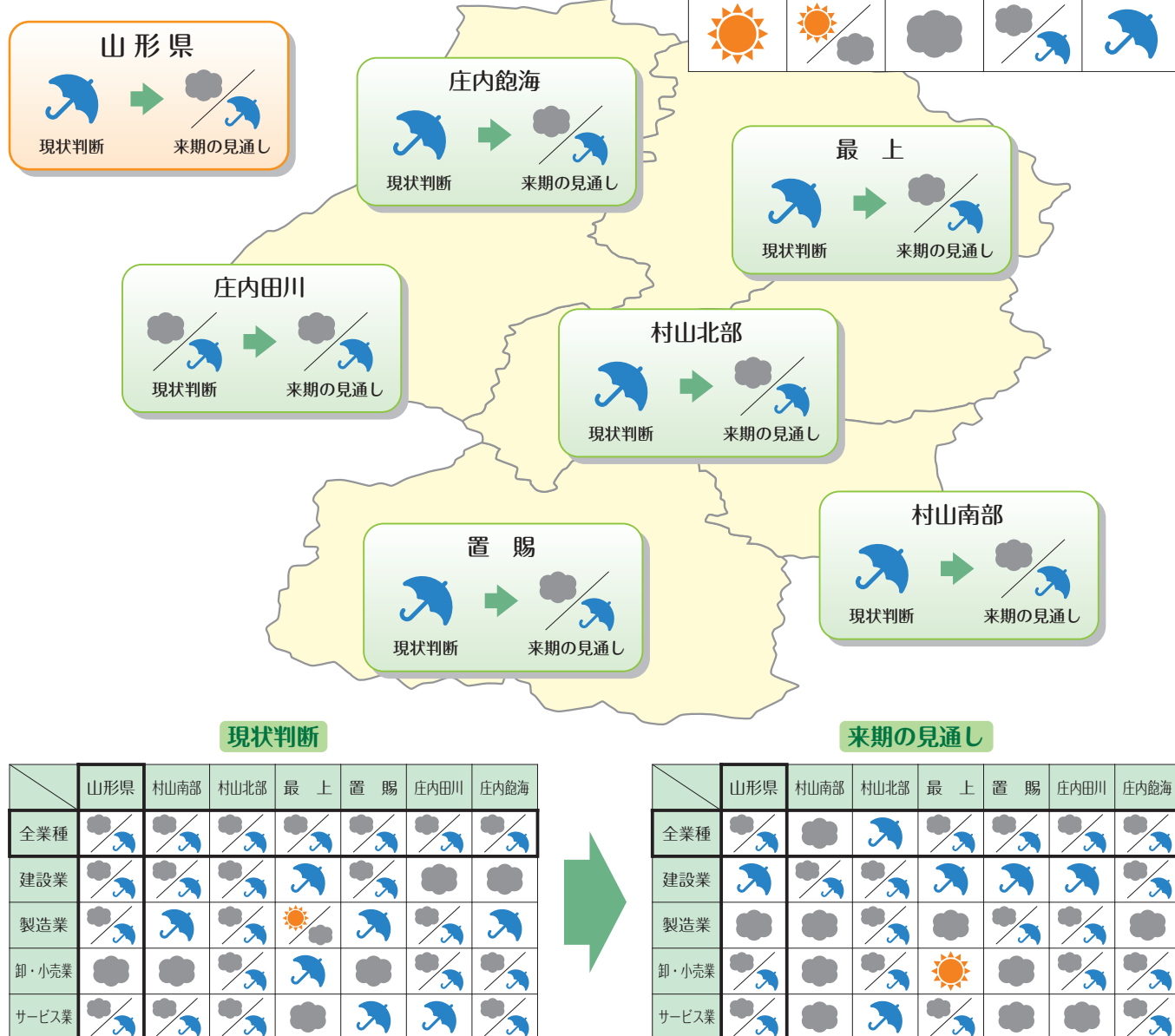
平成23年8月2日～19日

4 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

▶ 景気の天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値（前年同期比）を5段階に分けて図解したもの。「天気図の凡例」をご参照のこと。



▶ 山形県企業の景気動向

現状判断

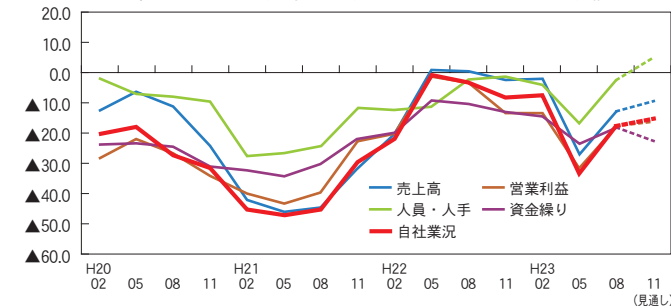
自社の業況判断を示す「自社の業況DI値」（前年同期比）は、震災直後の5月調査に比べ16.1ポイント改善し、▲17.2となった。但し、震災前（2月調査）の▲7.2に比し、なお▲10.0の差がある。大震災から約5ヵ月が経過し、サプライチェーンの正常化などにより、業況は回復してきたものの、円高や海外経済の先行き不安等もあり、震災前の水準までは戻っていない状況である。

来期の見通し

「自社の業況DI値」（前年同期比）が▲15.2(2.0ポイント上昇)となり、ほぼ横ばいの見込みとなっている。

詳細は調査レポート(<http://www.f-ric.co.jp/>)をご覧ください。

図表1 「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表2 「各種DI値（前年同期比）」

調査項目	調査時点	自社業況 (前期比)	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
H23.02 (n=491)	▲7.5	▲6.7	▲2.2	▲13.2	▲4.1	▲14.3
H23.05 (n=532)	▲33.3	▲32.9	▲27.2	▲31.9	▲16.9	▲23.7
H23.08 (n=500)	▲17.2	▲10.8	▲12.8	▲17.6	▲2.2	▲18.0
変化幅	16.1	—	14.4	14.3	14.7	5.7
H23.11 (n=500)	▲15.2	—	▲9.6	▲16.2	5.0	▲22.6
来期予測: 変化幅	2.0	—	3.2	1.4	7.2	▲4.6

▶ 業種別の動向

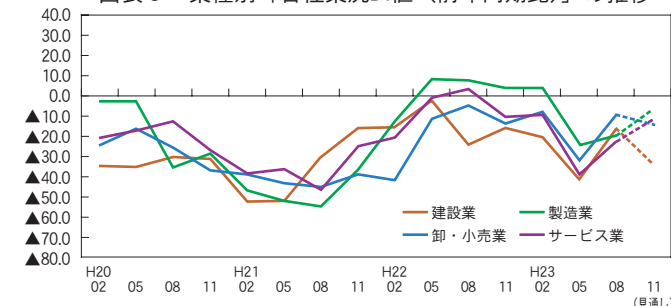
現状判断

建設業で▲16.4（24.8ポイント上昇）、製造業で▲19.8（4.6ポイント上昇）、卸・小売業で▲9.2（22.7ポイント上昇）、サービス業で▲22.5（16.4ポイント上昇）となった。回復度合いをみると、建設業と卸・小売業でV字回復を見せ、震災前（2月調査）の水準に戻ったのに対し、製造業は円高等により回復が鈍い結果となっている。

来期の見通し

業種によってバラツキがみられ、建設業が▲33.7（17.3ポイント下落）、卸・小売業が▲14.3（5.1ポイント下落）と一転して悪化する一方で、製造業が▲6.3（13.5ポイント上昇）、サービス業が▲11.6（10.9ポイント上昇）と着実に回復する見込みとなっている。

図表3 業種別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表4 業種別「自社業況DI値（前年同期比）」

調査項目	業 種 別 ・ 自 社 業 況			
調査時点	建 設 業	製 造 業	卸・小売業	サービス業
H23.02 (n=491)	▲20.3	4.1	▲8.1	▲9.4
H23.05 (n=532)	▲41.2	▲24.4	▲31.9	▲38.9
H23.08 (n=500)	▲16.4	▲19.8	▲9.2	▲22.5
変化幅	24.8	4.6	22.7	16.4
H23.11 (n=500)	▲33.7	▲6.3	▲14.3	▲11.6
来期予測: 変化幅	▲17.3	13.5	▲5.1	10.9

▶ 地域別の動向

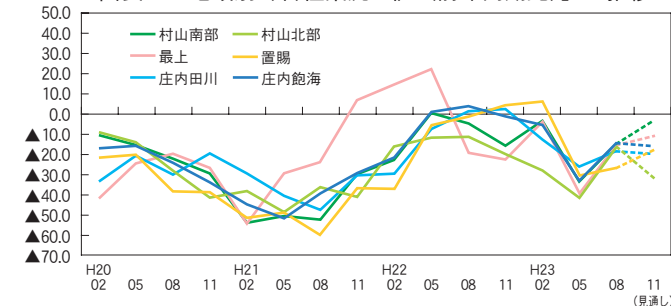
現状判断

村山南部で▲14.6（19.2ポイント上昇）、村山北部で▲16.4（25.1ポイント上昇）、最上で▲15.2（24.4ポイント上昇）、置賜で▲26.9（3.5ポイント上昇）、庄内田川で▲18.7（7.3ポイント上昇）、庄内飽海で▲14.1（18.9ポイント上昇）となり、全地域において回復している。但し、電子部品・デバイス系の製造業が集積している置賜、庄内田川の回復が鈍い結果となっている。

来期の見通し

地域によってバラツキが見られ、村山南部で▲3.1（11.5ポイント上昇）と回復するが、村山北部では▲31.3（14.9ポイント下落）と悪化する見込みとなっている。

図表5 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表6 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」

調査地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
調査時点						
H23.02 (n=491)	▲3.3	▲28.2	▲3.8	6.1	▲12.6	▲5.3
H23.05 (n=532)	▲33.8	▲41.5	▲39.6	▲30.4	▲26.0	▲33.0
H23.08 (n=500)	▲14.6	▲16.4	▲15.2	▲26.9	▲18.7	▲14.1
変化幅	19.2	25.1	24.4	3.5	7.3	18.9
H23.11 (n=500)	▲3.1	▲31.3	▲10.9	▲17.9	▲19.8	▲16.1
来期予測: 変化幅	11.5	▲14.9	4.3	9.0	▲1.1	▲2.0